

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2870200793		
法人名	有限会社トゥルース		
事業所名	グループホーム六甲		
所在地	神戸市灘区篠原伯母野山町三丁目18-11		
自己評価作成日	27年6月6日	評価結果市町村受理日	2015年 11月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hyogo-kai.go.com/">http://www.hyogo-kai.go.com/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	2015年 6月 29日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

今持っている能力を維持、向上できるように、できることは自分での理念のもとに、本人、職員、家族が一体となって取り組んでいる。毎年行っている2泊3日の旅行、春の京都の夜桜見物、秋の灘区地域で行う祭りの参加などは家族と入居者と力を合わせて社会活動にも働きがけている。このような活動が継続できるのも、毎月かかさず1回家族全員が顔を合す機会をもうけ、情報交換や日々の生活の報告などをして職員、家族との関係性を作ってきている。グループホーム六甲は入居者、家族、職員、地域と一緒に連携して住みやすい環境を意識的に行ってきた結果、平均滞在率の長期、また認知症であっても平均年齢が93歳で、毎年の旅行や行事参加など末永く生活を継続できている。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

認知症にとらわれず高齢者の能力を引き出すことで、可能な限り自立した生活の継続を目指している。そのための環境として、階段の上り降りや室内の段差等のあるあたりまへの生活、畑や花の手入れやその人に合った椅子の選択等、一人ひとりの心身状態を見極めた個々に適した環境にも力を注いでいる。職員は、注意深い観察力と適確な見守りを通して利用者への理解を深め、開設12年目を迎えた現在でも、利用者は行事や旅行など行きたい所に出かけたり、活き活きとした表情で家事をこなすなどマイペースで暮らしている。これは全て、管理者により認知症ケアの科学的根拠に基づいた明確なケア方法が基礎となっており、認知症高齢者の普通の暮らしが実現されている。今後も職員の育成強化を柱に認知症ケアの追求、持続可能な尊厳ある生活の継続を期待したい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員が入ったとき話したり、全体会議の中で確認したりする機会を設けている。理念の実施に向けてさまざまな活動を行っている。	入職時での理念の周知徹底に努めている。利用者個々のケアについての振り返り時や状況判断の際にも、常に原点に戻る道しるべとしている。職員目線にならないよう利用者目線を常とし、職員間で注意し合うようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の神社で催される行事等に参加している。地域で行われる清掃活動、年一回行われる秋祭りにも参加し、地域との交流を図っている。	利用者と共に地元の季節行事への参加や清掃活動等、継続して実施しており、事業所は地域に根づいてきている。同時に、事業所や認知症への理解についても、徐々に浸透しつつある。ボランティアの訪問や、老人会による野菜作りも定着し、触れ合いの機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2月に1回発行している新聞は事業所、家族などに配布し、認知症の啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の運営推進会議では、家族様・地域の方々・福祉関係者それぞれが意見を出しやすい雰囲気作りを心がけ、そこで出された意見は記録し、職員会議等でも検討する。	多数の家族の参加があり、活発な意見交換が行われている。活動報告にとどまらず、利用者の心身状況やそれに伴うケア方法等について丁寧に話しをしている。家族への理解、協力を仰ぐ意図からも、積極的な情報提供を心がけている。職員の名札による紹介事例がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて行政との連携を密にし、サービスの質の向上に努めている。灘区での連絡会に参加して情報交換なども行っている	制度に関する事や事務連絡に応じてアドバイスを得るなど、相談することもある。区のグループホーム連絡会が立ち上がり、市担当者との連携、他事業所との情報交換を通じた意見交換の場として、今後、連携が期待される。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームでは、身体拘束は行っていない。	市作成のDVD資料をもとに職員への周知を図るとともに、管理者はミーティングでも理解を深めるよう伝えている。事業所として身体拘束はしない方針を明確化し、不適切ケアにならないよう職員の意識統一に努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年の事業計画にも高齢者虐待防止についての研修会を実施している。また行政が主催の研修にも参加。また家族や職員、地域とも虐待について話し合いも行った	上記同様、職員への周知を図っている。他施設での事例を参考にして、身近に起こりうる課題としての認識を高めるよう伝えている。管理者は、職員の勤務体制、希望休の取得等、職員の職場環境も含めメンタル面での配慮を心がけている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内に成年後見制度の利用者がいるため、職員も直接関わることもある。そのためそのことについて職員も深く知る機会がある。また当ホームでも以前は活用していた人がいた。	以前、制度利用者を通じて身近な事例として学んだ経緯があり、現在も法人内他事業所に利用者がいる。職員の制度への理解、運営推進会議での家族への啓発等も行っている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解除の際は、個人に十分な説明と、話し合いが出来るよう心がけている。支援できることがあれば、積極的に動くように努めている。	関係書類を中心に、特にリスク管理について具体例を挙げて説明している。家族からは看取りについての問い合わせが多く、状況に応じた選択肢の提示を行うことで理解を得ている。見学から体験利用を得て、納得のいく利用を重視している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・電話・家族様の訪問等で家族様が意見や要望を言える場を作っている。その意見を検討し、反映出来るよう努めている。	各月毎の運営推進会議と家族会の他、日常の電話や来訪時でのやりとりなど情報交換を図っている。管理者は、利用者の状態把握や共有を図るために家族の来訪を働きかけ、コミュニケーションに努めている。職員も率先して声かけするなど、気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場職員と密に意見交換を行っている。申し送りは、リアルタイムに掲示板で確認や発信ができるようになっており、チームワークの向上に努めている。	普段から職員間の密な情報交換が定着しており、良好な意思疎通ができています。パソコンを使ったリアルタイムでの共有が可能で、利用者の状況変化にも柔軟に対応できています。職員からの意見や提案等に応じて随時、反映できる体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績を平等に応じて給与を配分している・雇用契約のさいに条件表を提示をして、全ての職員に対してクリアに開示し、契約を結んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その個人個人のレベルに合わせた研修への参加を促している。また、職員個人から要望の合った研修へ可能な限り参加できるように手配する。正職員には給与に資格取得するため費用も支給している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設からの研修の受け入れや、他施設への研修等に参加している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談より本人の希望を聞き取り、また本人の聞き取り困難な場合は、家族様・ケアマネージャーより情報を得ている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安や精神状態傾聴し、家族様の背景を理解しながら取り組んでいる。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様が、何をしたいのかを見極め会話の中で出来る限り対応し、また情報提供にも努めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過去の生活歴より得意な分野を見つけ、生活に取り入れて支え合う関係作りに努めている。また日々習慣化されていた生活を再活動できることもすすめている		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が気がかりな事や、意見・希望を職員に気軽に伝えたり、相談したり出来るように訪問時の声かけ、定期的な連絡を積極的に行っている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様・近隣の方の訪問があり、入居者によっては知人が来訪され、ゆっくり過ごしていただいている。また、入居者が以前住んでいた所へ年に1回旅行に行ったり、理容、病院もなじみの場所へ通へ外出などをして関係を途切れないようにしている。	家族の訪問だけでなく知人や友人、サークル仲間等の来訪は多い。遠方からの来訪があった場合は、利用者の居室に泊り、一緒に過ごしている。個々の要望に応じた定期的な買物や馴染みの美容院等へも支援している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や活動するときはそれぞれの相性や性格などを考え、座る席や一緒に活動するメンバーも考えている。活動内容も出来る所で役割を分担しながら生活している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した入居者の家族様も時折足を運べるような関係性を保ち、家族間や職員との関係の継続に前向きに働きかけている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩・買い物などで、入居者の希望を聞き、出来そうな所は行っていただいているが、逆に返ってトラブルになりそうな希望もあり、その時は職員間で話し合ったり、家族様と相談しながらなるべく本人の気持ちに沿うように取り組んでいる	利用者のできることは最大限活かし、要望を聞き取る姿勢でいる。利用者の状態把握を前提として、日頃の会話や様子から推測し、思いを汲み取っている。最終的に家族の意向を参考にしたり、相談して判断することもある。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	住み慣れた生活が出来るよう、本人・家族様の方から生活歴を教えていただき、情報を共有。過去の記録を見たりと把握に努めている。また、居室には馴染みの物(本人の私物)を置き、生活環境の変化を少なくしている		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	服薬や食事摂取量などのチェックシートを定期的につけ、それをもとに職員間で常時確認できるようにしている。また勤務している職員は外出先や自宅からでも掲示板をみて確認できるようにしている		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士で会議をし、出来ている所・問題がありそうな所など、意見交換を行い入居者・家族様の意見を含めた上で、介護計画を作成しそれに沿った支援を行っている。また、作成した介護計画は、入居者・家族様の同意を得ている。	利用者の現状把握から出来ていることを見極め、可能性を探っていくことで、利用者主体の計画を作成している。3ヶ月毎に見直し、達成状況を確認している。重要な支援者である家族とは常に共有を図り、積極的に支援を働きかけ、意向についても計画に反映している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンにて日々の様子を記録している。記録やインターネット掲示板を活用し、話し合いの中で意見を共有し問題意識の統一を図っている。また、その中でこれまでの支援を振り返る事で計画の見直しも行っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年1回の旅行へ行き、新聞で報告することで事業所との関わりが保たれている。また、入居者主体のボランティア活動を通し地域へ啓発している。家族様には、ホームページや家族会で地域への取り組みなどの情報を説明している		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者主体のボランティア活動があり、地域の清掃活動に参加したりする事によって、地域への発信を行ってきた。そのことから近隣の学校からボランティアが来たり、地域住民が演奏に来て下さったりと地域との関係が継続している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族様の意向を含めた上で、主治医と連携を取っている。定期受診もいっている。またオープン当初からかかりつけ薬局も作り服薬で変更があった場合などには、薬剤師から分かりやすい説明を受けている。	入所時、かかりつけ医については利用者、家族と十分な意向確認を行っている。他科受診については積極的な家族協力の体制が整備され、緊急時の医療連携につながる話し合いについても、家族会で持たれている。当初から「かかりつけ薬局」を確保しており、薬の管理が一元的に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師やかかりつけ病院の看護師との相談をして入居者の健康につとめている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された入居者には、定期的に職員が面会に行き、その都度医師や看護師、MSWとの情報交換・意見交換を行い、家族様との情報交換を密にすることで早期退院に向けた連携を図っている。	入院が必要になった場合には、早期退院に向け病院関係者との連携を密にしている。利用者の入院中の安心と混乱回避のために、馴染の職員が見舞いに通っている。居室については、医師の診断により期限を切ることなく、確保している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについては家族会等で情報を共有し、重度化になった時にも対応できるように日ごろより意思疎通を行い、方向性を定めている。	利用者のADL維持に、最大限の努力をしている。高齢化と共に重度化の対応については、家族会等で十分な理解と協力を得るための働きかけを行っている。状態の変化と共に医療連携を図り、利用者、家族の思いを細かく丁寧に確認しながら、対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に取り組んでおり、各自が対応できるように取り組んでいる。また記録も全体がみれるように発信してこれからのケアに生かしている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、消防指導を受けている。また災害対策の物品も用意し意識している	毎年2回の定期的な消防訓練が実施されている。夜間一人体制時の職員の不安等、日頃から職員同士確認し合っている。緊急時の連携体制については、職員間及び同法人内事業所、地域住民の協力体制についても共有を図っている。	防災全般を含めた夜間体制の強化等、今後も継続した取り組みを期待したい。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人ひとりの尊厳に配慮したコミュニケーションを心がけて行っている。慣れなどによってなまぬかになりがちな関係も意識しながら努めている。	利用者一人ひとりの思いや生活を大切にしながら、日頃の介護に注意を払っている。丁寧に利用者を観察し、支援することによって、好きな歌、好みの話題をとりあげ、声掛けに変化を持たせている。調査日当日にも、台所仕事を共にしながらこまめな声掛けと共に、歌声が響いていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と密に関わって行く事で、その入居者が何を望んでいるのかを理解していくように努め、入居者が自己決定できる環境を提供し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活のペースに合わせてこれまでの生活環境や、介護計画に沿った、その人らしい暮らしが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容は、入居者・家族様の希望に沿って理容支援を行っている。髪形については、入居者の希望を尊重している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、毎食買い物や料理を作ったり、食事・その準備と後片付けの時間を決めず、職員と共にしている。また、自分たちが作った野菜を収穫し、楽しみながら料理を行い食卓に出すようにしている。	食材は利用者と共に買い出しに行き、共同でそれぞれが一連の作業を行っている。談笑しながら、また歌を歌いながら、職員と共に食事の準備を楽しんでいる。行事食や弁当作りなど、場面毎に利用者の得意なことや役割を活かせるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの身体状況を考慮した栄養摂取や水分確保の支援を行っている。また、カロリー計算も行っている。体調がよくない入居者に対しても病院による栄養指導で食事を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はご自分で入れ歯の洗浄をしていたり、口の中をきれいにし、歯科医の指導の下、定期的な消毒も行っている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄するタイミングが合わない場合は、チェック表を作成しその人がなるべく排泄に関して失敗しないよう努めている。	布パンツ使用の利用者が減少していく現状ではあるが、一人ひとりの排泄パターンの観察をしている。誘導支援・声掛けによって、昼間はほとんどの利用者が失敗することなく過ごすことができている。歩行が十分とはいえない利用者にも、昼間はトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人の生活歴に応じた体力作り・運動。定期的な水分補給の他、ストレスの軽減・安眠できる環境作り等にも取り組んでいる。生活の一場面にも無意識でおこなっている。例えば台所での立ち仕事や居室内の掃除など		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようにしている。また、その方の馴染みの時間に声かけを行い入浴していただいている。体調に異常がないかぎり365日入浴できるような環境につとめている	家庭的な個浴槽に、利用者が何時でも、希望により、自由に入浴できる体制である。利用者は、普通の生活の中で毎日入浴できることを楽しみとし、途切れることなく継続できることで、利用者の自立した生活維持となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や、生活リズムを尊重し何度も会議を重ねながら、どのようにすれば気持ちよく休息したり、安眠できるかを模索しながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	オープン当初から、かかりつけ薬局と信頼を積み重ね双方が確認できるような関係性を構築。職員は誰もがそれを確認できるようにしており、受診者があればその都度掲示板にのせ各職員に発信している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯・掃除・料理・買い物・畑作りなど、個々に合った役割、楽しみを職員と共に行っている。身体機能に応じてなじみのことが途切れないように支援している		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年、1年1回2泊3日の旅行に行っている。春には京都の円山公園に夜桜を鑑賞している。 外出ができる能力を有する限り、訪問内容、往診は必要がない。また食材も1日分必ず入居者と一緒に買い物に行く	利用者と共に、事業所前の坂道を日常的に登り降りする職員の取り組みが、外出を継続している。日々の散歩や食材の買い出しといった日常生活が、利用者の歩行出来る喜びや、毎年の2泊3日の旅行に行きたいという強い思いにつながっている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や旅行時には、自分でお金の受け渡しして、決められた金額の中で自由に商品の購入を楽しんだりする機会をつくっている		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って、電話や手紙のやり取りを支援している。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には観葉植物、玄関先には生花を飾り、ソファを置くなどして家庭的な環境作りを心がけている。また、台所周りは多くの入居者が料理作りにも関わっていただける環境になっている。	食堂・リビングの窓からは明るい日差しをうけ、戸外の景色からは四季を感じることができる。リビングには多数の様々な椅子が置かれ、利用者一人ひとりの姿勢、嚙下力に合わせて椅子を選択している。普通のご家庭での暮らし同様に、身体の機能の維持に向けた環境が用意されている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置は、入居者同士の相性を考慮したものにしており、また玄関先などにソファを置く事で入居者同士のコミュニケーションの場を作っている。この他にも新聞や雑誌を設置する事で1人になれる機会も作っている		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や布団、カーテンなど、入居者本人に馴染みのある物を持ってきてもらい使用していただいている。居心地の良い環境作りを基本にしている。	居室は、全て広さや間取りが違っている。自由に居室造りができるように、施設対応の設えは畳の間のみとしている。布団を敷いて休む人、ベッド利用などの習慣やカーテンの色合い、仏壇等の家具、馴染の写真等、利用者それぞれの好みと思いが現われている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体機能に応じた手すりの設置などを行っている。また、過剰なバリアフリーを進めるのではなく、適度な段差を残すなどして現在する身体能力を維持する為に、意識を持った環境作りを行っている。		